

理事長挨拶（2015年1月）

平成26年度事業計画の重要な課題でありました Journal of Pharmacological Sciences (JPS) と日本薬理学雑誌（日薬理誌）の二誌の委託先変更は順調に進行いたしました。平成27年1月からJPSは冊子体を廃止し全面電子ジャーナル化を行います。また事務局に関しては、理事会の継続性担保の方策を今後整備すべきであること、第18回国際薬理学臨床薬理学会議（WCP2018）の京都開催を4年後に控えていること、出版経費の削減により財政状況が好転する見込みになったことなどを勘案して、外部委託は平成31年（2019年）まで先延ばしすることとしました。平成27年度は、学会の使命である薬理学の振興によって学術文化の発展に寄与するため、学会活動の更なる活性化を目指すことを目標とします。学術集会については、従来通り活発な活動を継続し、女性や若手研究者そして企業研究者の積極的な参画を促すとともに、中長期的な視点に立ったプログラム構成を企画できる体制を確立して行きたいと考えています。さらにWCP2018を成功させるためには、日本臨床薬理学会をはじめとした国内学会と協力しながら、国際薬理学連合（IUPHAR）およびアジア・オセアニア各国とも連携して、学会のグローバル化をさらに推進していく必要があります。これに関連して、米国と英国の薬理学会との新たな連携も模索して行きます。学会機関誌については、編集委員会ならびに広報委員会を中心に更なる質の向上に尽力します。特に、JPSの国際誌としてのレベルアップと学会ホームページの充実を一層進めてまいります。

平成27年度の事業計画では、本会の更なる発展を目指したいと考えておりますので、会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします。

理事長 飯野 正光